

北海道観光学科

2019年度1年生シラバス

# 観光インターンシップ

授業期間：1年次 4月～2月

(研修期間は1月 冬休み明けの2週間)

単位・時間数：8単位・120時間

担当者：友兼 昭・研修先企業担当者

講義の目的および概要：

就業体験を通し、学生から社会人への移行及びビジネスマナー・社会人基礎力を身に付け実践し、社会人としての一步を踏み出す。

講義方法：

- ① 講義および演習・履歴書の作成などの事前研修
- ② 研修先での就業体験（1月の2週間）
- ③ お礼状・レポート作成などの事後研修

授業内容：

1. ガイダンス
  - ・ インターンシッププログラムの説明など
2. 専門学校2年間の過ごし方
  - ・ インターンシップと就職活動
3. 事前研修
  - ・ インターンシップとは
  - ・ コミュニケーションスキル
  - ・ 業種・職種について（企業・業界研究）
  - ・ 2年生報告会、事前希望調査
  - ・ インターンシップの為の履歴書とは
  - ・ 自己PR・学校生活で得た事を書き方（履歴書作成）
  - ・ 事前訪問の目的と注意点
4. 最終打ち合わせ及び事前企業訪問
5. 研修前、最終事前研修
6. インターンシップ研修
7. 事後研修
  - ・ お礼状作成・送付
  - ・ レポートの作成
  - ・ これからの就職活動について

到達目標：

- ・ 就業体験を通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力を養う。
- ・ 就業体験を行う事で、働く意味、目的を考察する。
- ・ 各自の学校生活、就職活動への意識を高め、自身の目標を達成できるようにする。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

- |                 |     |
|-----------------|-----|
| 1. 研修日誌         | 30% |
| 2. 提出物の完成度・期日厳守 | 20% |
| 3. 評価表          | 20% |
| 4. 事後報告・レポート    | 20% |
| 5. 礼状           | 20% |

テキスト：

1. 「観光インターンシップ」（オリジナル教材）
2. 「ワークで学ぶインターンシップリテラシー」（西文社）

学習を行うにあたり：

- ・ 研修の意義及び目的を明確にすることが求められる。
- ・ サービス接遇科目などでビジネスマナーやホスピタリティの考え方をしっかりと学んでおく。
- ・ 最終報告会は2年次「プレゼンテーション」科目内で実施します。

# 国内旅行実務

授業期間：1年次 4月～9月

単位・時間数：19単位・285時間

担当者：福森 星嗣

(職務内容)

旅行会社での勤務経験があり、3年9カ月企業や団体の営業を担当。

(指導内容)

旅行会社での基本的に必要な知識を身に付ける指導する。

講義の目的および概要：

「国内旅行業務取扱管理者」は旅行会社のみならず、ホテルや観光協会など観光産業に関わる企業や団体では必要とされている。旅行業法・旅行業約款・国内実務の3つの分野を学び、旅行業で必要な知識を学びます。

講義方法：

国内旅行業務取扱管理者資格取得をめざし、テキスト・板書・パワーポイントを使用し授業展開を行う。また、国内観光資源は国内地理サブノートを授業と宿題の併用にて実施する。

授業計画：

1. 国内旅行業務取扱管理者資格とは
2. 国内観光資源
  - ・ 国内観光地・世界遺産・国立公園など
3. 国内運賃・料金の計算
  - ・ JR、航空、貸切バス、フェリー、宿泊
4. 旅行業法
5. 旅行業約款・各種約款
  - ・ 旅行業約款・国内航空約款・宿泊約款・貸切バス約款  
フェリー約款
6. 過去問題の実施
7. 模擬試験の実施

到達目標：

「国内旅行業務取扱管理者試験」の合格を目指す。資格を取得する事で旅行業を展開する企業で旅行ビジネスの中心的な役割を担う事が出来る人材育成を行う。

目標資格・受験時期：

国内旅行業務取扱管理者試験・1年次9月

試験・成績評価法：

1. 試験その他 50% (試験・模擬試験・過去問)
2. 小テスト 30%
3. 平常点その他 20% (授業への参加・出席)

テキスト：

JTB 総合研究所

1. 旅行業法・旅行業約款
2. 運送・宿泊約款
3. 国内運賃・料金
4. 国内観光資源
5. 科目別速習問題集【国内】
6. 国内観光地理サブノート

学習を行うにあたり：

- ・ この試験は暗記科目であり、復習・反復練習をしっかりとすること。
- ・ 中でも地理に関しては範囲が広いため継続的な学習が重要になる。その為、国内地理サブノートの自己学習を行い、週に1度提出をする。
- ・ 他のクラスが夏休み期間に集中授業を実施する。その期間の休みは秋休みに振替となる。
- ・ 放課後などに補習・講習を行う。
- ・ 旅番組・ニュース・新聞・雑誌などから旅行・観光に関連する最新情報をしっかりと得ることが地理の勉強にとって重要になる。

## 北海道観光プラン作成演習

授業期間：1年次 4月～11月

単位・時間数：2単位・30時間

担当者：福森 星嗣（実務経験者）

（職務内容）

旅行会社での勤務経験があり、3年9カ月企業や団体の営業を担当。営業業務ではプランの作成やお客様に満足頂くためのデータ整理などを行っていた。

（指導内容）

北海道の旅行プランの作成を行えるように指導する。

講義の目的および概要：

2年生では北海道観光プロデュース科目があり、外部コンテストなどに参加していく。その前段としてプラン作成における基本的な情報収集の手段を習得する。

講義方法：

北海道庁が毎年公表する資料を基に、北海道観光の問題点などの簡単な分析を行う。また、その問題点や特徴を知り、その地域の改善のための観光プランの作成などをグループワークで行っていく。

授業計画：

- 北海道観光入込客数調査報告の分析  
（グループワーク・発表）
- 分析から見えた北海道の問題点と解決策  
（グループワーク・発表）
- 北海道観光プランづくり  
（グループワーク・発表）

到達目標：

北海道の基本的な知識やプランをつくるポイントを学び、2年次の北海道観光プロデュース科目に繋げ、2年次でコンテストの上位入賞を目指していく。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価法：

1. 課題・レポート 80%（グループ評価・個人評価）
2. 平常点その他 20%（出席・参加意欲）

テキスト：

1. 「北海道観光ハンドブック  
北海道観光マスター検定公式テキスト」  
（北海道商工会議所連合会）
2. 「北海道観光入込客数調査報告」（北海道経済部観光局）

学習を行うにあたり：

- 新聞やテレビ、旅番組、雑誌などから北海道観光に関連する最新情報をしっかりと得ること。
- 2年次にも北海道観光マスター検定公式テキストは使用します。

## 国内旅行演習

授業期間：1年次 2月

単位・時間数：2単位・30時間

担当者：福森 星嗣（実務経験者）

（職務内容）

旅行会社での勤務経験があり、3年9カ月企業や団体の営業を担当。営業業務ではプランの作成やお客様に満足頂くためのデータ整理などを行っていた。

（指導内容）

北海道の旅行プランの作成を行えるように指導する。

講義の目的および概要：

北海道の魅力を学び感じることは重要である。しかし、その北海道の魅力をさらに知るには他地域と比較をしていかなければならない。また、北海道で感じる事ができない歴史・文化・自然などを実際に体験し、北海道以外の地域を知る。

講義方法：

- ① 研修旅行に向けた事前学習
- ② 国内研修旅行（沖縄県・3泊4日）

授業計画：

沖縄県の観光情報を収集する。

- 沖縄への研修旅行（3泊4日）

到達目標：

沖縄県と北海道の観光の違いを考察し、北海道の魅力をさらに感じる。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価法：

1. レポート 40%
2. 課題 40%
3. 平常点その他 20%（集団行動・時間厳守・挨拶）

テキスト・参考文献：

なし

学習を行うにあたり：

- 新聞やテレビ、旅番組、雑誌などから沖縄観光に関連する最新情報をしっかりと得ること。
- 研修旅行は必修科目であり、参加必須となる。
- 旅行費用は学校より指示により集金をする。

## 北海道の観光

授業期間：1年次 4月～11月

単位・時間数：3単位・45時間

担当者：友兼 昭

講義の目的および概要：

北海道は観光地として日本国内をはじめ世界に誇る事が出来る地域になっています。この北海道の観光地を学び、豊富な知識を持つことで、魅力を伝え、北海道観光へ貢献できる人材を育成する為に北海道観光マスター取得を目指します。

講義方法：

北海道観光ハンドブック第2章「北海道の基礎情報」、第3章「北海道の観光地」を中心に北海道の観光の知識を講義する。

授業計画：

1. 北海道観光マスターとは
2. 北海道観光マスター検定とは
3. 北海道の基礎情報
  - ・ 一般事情
  - ・ 産業・経済
4. 北海道の観光地
  - ・ 概況
  - ・ 圏域ごとの観光地

到達目標：

北海道の基礎情報・概況・観光地を学ぶ事で北海道の魅力を多くの観光客に伝える事により、北海道の観光産業の成長・発展に貢献できる人材の育成を行う。また、最終目標として、北海道観光マスターの取得を目指す。

目標検定・受験時期：

北海道観光マスター検定・1年次11月

試験・成績評価法：

1. 試験その他 50% (定期試験・検定試験の合否)
2. 小テスト 30%
3. 平常点その他 20% (授業への参加・出席)

テキスト：

「北海道観光ハンドブック  
北海道観光マスター検定公式テキスト」  
(北海道商工会議所連合会)  
※このテキストは北海道の歴史と文化・北海道の自然・北海道の交通でも使用する共通テキストです。

学習を行うにあたり：

- ・ 新聞やテレビ、旅番組、雑誌などから北海道観光に関連する最新情報をしっかりと得ること。
- ・ 2年次にも北海道観光マスター検定公式テキストは使用します。

## 北海道の交通

授業期間：1年次 9月～11月

単位・時間数：1単位・15時間

担当者：福森 星嗣 (実務経験者)

(職務内容)

旅行会社での勤務経験があり、3年9カ月企業や団体の営業を担当。旅行会社勤務時にクルーズコンサルタントの資格を取得した。

(指導内容)

北海道におけるクルーズや交通機関の重要性などを指導する。

講義の目的および概要：

観光にとって交通は密接な関係があります。北海道観光においてはLCC就航や北海道新幹線の開業、クルーズ旅行など北海道の交通に関する変遷と現状を学びます。

講義方法：

北海道観光ハンドブック第7章「北海道の交通網と交通機関」を中心に、新聞やインターネット・テレビ番組などを利用して北海道の交通と日本の交通事情について講義する。

授業計画：

1. 北海道と交通の関わり
2. 鉄道 (JR・都市交通)
3. 北海道新幹線
4. 陸運
5. 航空
6. 海運
7. クルーズ船

到達目標：

北海道の交通の現在までの変遷と現状を学び、これからの北海道の交通と観光の繋がりや発展の可能性について考える。また、最終目標として、北海道観光マスターの取得を目指す。

目標検定・受験時期：

北海道観光マスター検定・1年次11月

試験・成績評価法：

1. 試験その他 50% (定期試験・検定試験の合否)
2. 小テスト 30%
3. 平常点その他 20% (授業への参加・出席)

※検定の結果も最終評価に反映します。

テキスト：

「北海道観光ハンドブック  
北海道観光マスター検定公式テキスト」  
(北海道商工会議所連合会)  
※このテキストは北海道の観光・北海道の歴史と文化・北海道の自然でも使用する共通テキストです。

学習を行うにあたり：

- ・ 新聞・テレビ・旅番組・雑誌などから北海道の交通に関連する最新情報をしっかりと得ること。
- ・ 2年次にも北海道観光マスター検定公式テキストは使用します。

# 札幌の観光

授業期間：1年次 4月～7月  
単位・時間数：3単位・45時間  
担当者：友兼 昭

講義の目的および概要：

北海道の中心都市である札幌市。北海道観光には欠かすことが出来ない都市です。その札幌の政治・経済・生活文化・観光施設など札幌市を案内するために必要な知識を学ぶ。

講義方法：

札幌シティガイド検定公式テキストの「政治と経済」・「生活文化」・「札幌の観光施設」の3分野を中心に講義する。

授業計画：

1. 札幌の政治と経済
  - ・ 市政
  - ・ 経済のあらまし
  - ・ 政治・経済
  - ・ 交通
2. 札幌の生活文化
  - ・ 衣食住
  - ・ 四季のまつり
  - ・ スポーツ
  - ・ 風習・ことば
3. 札幌の観光施設

到達目標：

北海道の中心都市である札幌の文化・市政を学び、札幌の魅力を発信できる人材の育成を目指す。また、最終目標として札幌シティガイド検定の取得を目指す。

目標検定・受験時期：

札幌シティガイド検定・1年次9月

試験・成績評価：

1. 試験その他 50% (定期試験・検定試験)
2. 小テスト 30%
3. 平常点その他 20% (授業への参加・出席)

テキスト：

「札幌シティガイド検定「公式テキスト」」(札幌商工会議所)  
※このテキストは北海道の観光・北海道の歴史と文化・北海道の自然でも使用する共通テキストです。

学習に行うにあたり：

- ・ 新聞やテレビ、旅番組、雑誌などから札幌市の観光に関連する情報をしっかりと得ること。
- ・ 札幌シティガイド検定「公式テキスト」は2年次でも使用します。

# 北海道の歴史と文化

授業期間：1年次 4月～11月  
単位・時間数：2単位・30時間  
担当者：関口 明

講義の目的および概要：

北海道観光の重要な資源である「歴史と文化」について、旧石器時代から現代までを学ぶ。その中でも、重要な要素であるアイヌの「歴史と文化」について理解する。

講義方法：

北海道観光ハンドブック第4・5章を中心に、映像資料(DVD・写真資料)を利用し、「北海道の歴史と文化」を講義を通して学ぶ。なお7、8月は札幌の歴史について集中的に学ぶ。

授業計画：

1. 旧石器～縄文
2. 続縄文～擦文
3. アイヌの歴史と文化
4. 松前藩の歴史
5. 蝦夷地から北海道へ
6. 近現代の北海道
7. 北海道の祭り
8. 札幌の歴史文化

到達目標：

「北海道の歴史と文化」が本州とは異なる側面を持ち、それが観光資源となっていることを理解し、北海道観光マスター検定及び札幌シティガイド検定の取得を目指す。

試験・成績評価：

1. 定期試験 50%
2. 小テスト 30%
3. 平常点その他 20% (講義中の参加度)

目標検定・受験時期：

1. 札幌シティガイド検定・1年次9月
2. 北海道観光マスター検定・1年次11月

テキスト：

1. 「北海道観光ハンドブック  
北海道観光マスター検定公式テキスト」  
(北海道商工会議所連合会)
2. 「札幌シティガイド検定「公式テキスト」」  
(札幌商工会議所)  
※このテキストは北海道の観光・北海道の歴史と文化・北海道の自然でも使用する共通テキストです。

学習に行うにあたり：

- ・ 北海道の地理的な整理をしておく。
- ・ テレビ・新聞で北海道の現状を知る。

# 北海道の自然

授業期間：1年次 4月～11月

単位・時間数：2単位・30時間

担当者：小川 浩一郎（実務経験者）

（職務内容）

環境市民団体に10年間、自然環境を活かした地域づくりや自然ガイド、自然環境を活用したツアープログラム作りに従事。

（指導内容）

現在も行っているリアルな自然環境業務に観光関係の要素を組み込み北海道観光マスター検定、札幌シティガイド検定の科目も指導する。

講義の目的および概要：

北海道の自然と北海道観光は密接な関係があります。日本の中でも特異な自然地帯の中でこういったエリアや見どころ、特性があるのかを学びます。

講義方法：

北海道観光ハンドブック第6章「北海道の自然」を中心に、北海道の自然の中でも観光で訪れる際に人気の高い「自然」を学ぶ。

授業計画：

1. ≪札幌シティガイド≫札幌の自然の特性 気候
2. ≪札幌シティガイド≫札幌の自然の特性 地形・地質
3. ≪札幌シティガイド≫札幌の自然の特性 植生
4. ≪札幌シティガイド≫札幌の自然の特性 野生動物
5. ≪札幌シティガイド≫人間と自然の関わり 自然を守る取り組み
6. ≪札幌シティガイド≫人間と自然の関わり 自然のある暮らし
7. ≪北海道観光マスター≫北海道の気象
8. ≪北海道観光マスター≫北海道の地形・地質
9. ≪北海道観光マスター≫北海道の植生
10. ≪北海道観光マスター≫北海道の野生動物
11. ≪北海道観光マスター≫北海道の自然公園
12. ≪北海道観光マスター≫北海道の世界自然遺産
13. ≪北海道観光マスター≫北海道のラムサール条約湿地
14. ≪北海道観光マスター≫北海道の特別天然記念物
15. ≪北海道観光マスター≫北海道のその他自然

到達目標：

北海道の基本的な自然の知識を学び、これからの自然と観光のつながりと発展の可能性について考える。また、札幌シティガイド検定及び北海道観光マスター検定の取得を目指す。

目標検定・受験時期：

1. 札幌シティガイド検定・1年次9月
2. 北海道観光マスター検定・1年次11月

試験・成績評価：

1. 検定試験結果 50%
2. 授業後の小テスト 30%
3. 平常点 20%

テキスト：

1. 「北海道観光ハンドブック  
北海道観光マスター検定公式テキスト」  
(北海道商工会議所連合会)

2. 「札幌シティガイド検定「公式テキスト」  
(札幌商工会議所)

※このテキストは北海道の観光・北海道の歴史と文化・北海道の自然でも使用する共通テキストです。

学習に行うにあたり：

- 新聞・テレビ・旅番組・雑誌などから北海道の自然に関連する情報をしっかり得ること。

# 観光マーケティングⅠ

授業期間：1年次 10月～2月

単位・時間数：1単位・15時間

担当者：山岸 奈津子（実務経験者）

（職務内容）

リゾート経営会社にてサービス担当（3年間）、  
広報PR担当（7年間）に従事

（指導内容）

観光マーケティングの基礎と実務として活用できる  
ように事例や演習を用いて指導する。

講義の目的および概要：

世の中の企業活動の根本にあるマーケティングについて、その  
全体像と基本的な考え方を知る。

さらに、今まで学んできたことを有機的に結びつけ、企画立案  
のプロセス（飲み会から新規事業まで）を体感してみる

講義方法：

1. 講義の都度教材を提供し、問題を出すので、自分の考えや  
気づきをレポートとしてまとめる。
2. 企業の実際のマーケティング活動に触れるため、施設の見  
学や授業中にゲストに来ていただく機会を設ける（予定）。

授業計画：

1. マーケティングとは何か？  
企業活動とは何か？
2. マーケティングの普遍的な理論
3. マーケティングの歴史
4. マーケティング事例から学ぶ

到達目標：

マーケティングの基本的な意味合いや意義を知る  
企業活動の裏にあるマーケティング戦略に興味を持つ

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

1. レポート 40%
2. グループ実習 40%
3. 平常点その他 20%（授業中の発言および受講態度）

参考文献：

必要に応じて指定する

学習に行うにあたり：

- 自分がなにに興味関心があるのか、その業界や企業がどのよ  
うな戦略なのかに興味を持ってみる
- 街中で、テレビで、ラジオで、雑誌で、スマホで、なんでも  
良いので「面白いな、どうなってるのかな？」と興味を持っ  
たことを書き留めておく

# 日本の宿のおもてなしⅠ

授業期間：1年次 4月～9月

単位・時間数：2単位・45時間

担当者：福森 星嗣

講義の目的および概要：

日本の宿におけるおもてなしは世界からも高評価を得ている。  
そのおもてなしの基本を学び、日本の宿おもてなし検定〈初級〉  
の取得を目指し、おもてなしの知識をたくわえる。

講義方法：

日本の宿おもてなし検定〈初級〉のテキストを中心に講義してい  
く。

授業計画：

1. おもてなし検定の目的
2. 旅館がお客様に提供するもの
3. おもてなしの心構え
4. 立ち居振る舞い
5. お客様から良く聞かれること
6. うっかりミスの予防
7. フロント係の仕事
8. 客室係の仕事

到達目標：

旅館のおもてなしの基本を学び、日本の宿おもてなし検定〈初  
級〉の取得を目指すことで、様々な場面でおもてなしをしっかり  
できる様にする。

目標検定・受験時期：

- 日本の宿おもてなし検定〈初級〉・1年次9月

試験・成績評価：

1. 試験その他 50%（定期試験・検定試験）
2. 小テスト 30%
3. 平常点その他 20%（授業への参加・出席）

テキスト：

「日本の宿 おもてなし検定〈初級〉公式テキスト」  
（JTB 総合研究所）

学習に行うにあたり：

- テキストをしっかりと繰り返し読むことで知識が定着するの  
で、予習はせずに復習を何度もすること。
- 2年次では〈中級〉の取得を目指すのが、飛び級受験はできな  
いため、〈初級〉不合格者は〈初級〉を受験する事となる。



# サービス接遇Ⅰ

授業期間：1年次 4月～2月  
単位・時間数：2単位・30時間  
担当者：和田 早代

講義の目的および概要：

- (1) サービス業の接客力を身に付けるために、サービスとは何か、第一印象の大切さ、挨拶とお辞儀の仕方、敬語の使い方などの基本言動を理解し、出来る様にしていく。
- (2) ホスピタリティの高いサービス業の事例を紹介し、これからのサービス接遇現場で活用できるよう、個々人の感性を伸ばしていきます。
- (3) インターンシップやアルバイト先で活躍できるよう、社会の即戦力となれるように、出来る自信をつける。

講義方法：

サービス接遇検定3級受験ガイドと問題集に準じて授業展開をします。繰り返し問題を解くことで、出題傾向を把握してケアレスミスをなくし、サービス接遇検定3級の合格を目指します。

授業計画：

1. サービス接遇とは何か
  - ・第一印象の大切さを理解したうえで、あいさつやお辞儀、アイコンタクトの仕方を体得する。
  - ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の敬語の使い方を理解する。
2. サービス業のおもてなしの事例を把握する
  - ・飲食業・宿泊業など観光産業を中心に紹介する。
3. サービス接遇検定3級テキスト
  - ・ガイドと問題集を繰り返し学習する。(宿題あり)
4. 接遇用語の理解を深める
  - ・小テストの実施
5. 模擬試験の実施
  - ・3級合格に向けて、弱点を克服する。

到達目標：

サービス・接遇について理解し、満足の高いお客様対応を出来る様にする。また、サービス接遇検定3級の資格取得を目指す。

目標検定・受験時期：

サービス接遇検定3級・1年次11月

試験・成績評価：

1. 試験その他 50% (定期試験・検定試験の合否)
2. 小テスト 30%
3. 平常点その他 20% (授業への参加・出席)

テキスト：

1. 「サービス接遇検定受験ガイド3級」(早稲田教育出版)
2. 「サービス接遇検定実問題集3級」(早稲田教育出版)

学習に行うにあたり：

- ・過去問題や接遇用語など、宿題や復習の積み重ねが検定合格の近道です。敬語は使い慣れることが大切なので、日頃から先生やアルバイト先などで積極的に使いましょう。」

# 観光英語Ⅰ (基礎 Class)

授業期間：1年次 4月～2月  
単位・時間数：4単位・60時間  
担当者：David Wright/Keith Kenny

講義の目的および概要：

日本の外国人観光客は年間4000万人に到達する時代がもう間もなくです。そのため、観光産業にとって外国語は必要不可欠なものになっていきます。現在、日本に来る外国人観光客は最低でも英語が話せます。最近、観光産業に限らず、英語を話す機会が多くなることから、日常英語や観光専門英語の表現や使い方を学びます。

講義方法：

英語能力を高めるためプリントで文法の基礎を学び、コミュニケーションできるためのドリル・ロールプレイ・ゲームなどを行います。その中心として観光シチュエーションを練習します。

授業計画：

1. 自己紹介
2. 文法基礎
3. 道案内・説明
4. 時間・金額・特徴
5. 通訳ツールの使い方
6. 観光の専門用語
7. 観光シチュエーション

到達目標：

- ・自分について話をできるような英語力を身に付けます。
- ・分かりやすく日常のテーマやアクティビティについて話せるようになります。
- ・簡単な観光専門用語の使い方や意味が解るようになる。

目標検定・受験時期：

英検4級・1年次10月

※実用英語技能検定に変更になる場合があります。

試験・成績評価：

1. 定期テスト 60%
2. リポート・課題 20%
3. 平常点その他 20%

テキスト：

1. 適宜、授業中にプリントを配布する。

学習に行うにあたり：

- ・コミュニケーションのために通訳ツールの使い方が分かる。

## 観光英語 I (応用 Class)

授業期間：1 年次 4月～2月

単位・時間数：4単位・60時間

担当者：David Wright/ Keith Kenny

講義の目的および概要：

日本の外国人観光客は年間 4000 万人に到達する時代がもう間もなくです。そのため、観光産業にとって外国語は必要不可欠なものになっていきます。現在、日本に来る外国人観光客は最低でも英語が話せます。最近、観光産業に限らず、英語を話す機会が多くなることから、日常英語や観光専門英語の表現や使い方を学びます。

講義方法：

英語能力を高めるためプリントで文法の基礎を学び、コミュニケーションできるためのドリル・ロールプレイ・ゲームなどを行います。その中心として観光シチュエーションを練習します。

授業計画：

1. 自己紹介
2. 文法基礎
3. 道案内・説明
4. 時間・金額・特徴
5. 通訳ツールの使い方
6. 観光の専門用語
7. 観光シチュエーション

到達目標：

- ・自分について話をできるような英語力を身に付けます。
- ・詳しく日常のテーマやアクティビティについて話せるようになります。
- ・よくある観光専門用語の使い方や意味が解るようになる。

目標検定・受験時期：

英検 4 級・1 年次 10 月

※実用英語技能検定に変更になる場合があります。

試験・成績評価：

- |            |     |
|------------|-----|
| 1. 定期テスト   | 60% |
| 2. レポート・課題 | 20% |
| 3. 平常点その他  | 20% |

テキスト：

2. 適宜、授業中にプリントを配布する。

学習を行うにあたり：

- ・コミュニケーションのために通訳ツールの使い方が分かる。

## 商業簿記 I

授業期間：1 年次 9月～2月

単位・時間数：10単位・150時間

担当者：友兼 昭

講義の目的および概要：

簿記は、企業規模の大小や業種、業態を問わずに、日々の経営活動を記録・計算・整理して、経営成績と財政状態を明らかにする技能です。簿記を理解することによって、企業の経理事務に必要な会計知識だけではなく、財務諸表を読む力、基礎的な経営管理や分析力が身につきます。また、ビジネスの基本であるコスト感覚も身につきますので、コストを意識した仕事ができるようになる。

講義方法：

テキスト・問題集を用いて、単元の説明、問題演習、確認テストという順に進めていく。検定試験前は、過去問題集を用いて答案練習を行う。

授業計画：

1. 簿記を学ぶにあたって
2. 貸借対照表と損益計算書
3. 取引と勘定、仕訳と転記
4. 試算表 (1)
5. 決算手続き (1)
6. 期中における取引の仕訳
  - ①現金・預金、②商品売買、③手形取引、
  - ④有価証券・固定資産、⑤その他資産・負債・取引
  - ⑥伝票会計
7. 試算表 (2)
8. 決算手続き (2)

到達目標：

企業活動の基本である簿記を学び、重要な取引の流れ、利益管理などビジネススキルを習得し、日商簿記検定 3 級の取得を目指す。

目標検定・受験時期：

日商簿記検定 3 級・1 年次 2 月

試験・成績評価：

- |           |     |                |
|-----------|-----|----------------|
| 1. 試験その他  | 50% | (定期試験・検定試験の結果) |
| 2. 小テスト   | 30% |                |
| 3. 平常点その他 | 20% | (授業への参加・出席)    |

テキスト：

1. 「新版日商簿記 3 級テキスト」(実教出版)
2. 「新版日商簿記 3 級問題集」(実教出版)
3. 「合格するための過去問題集 日商簿記 3 級」(TAC)

学習を行うにあたり：

- ・簿記の原理原則を丸暗記ではなく、しっかり理解することが重要である。
- ・検定試験 3 週間前より週 2～3 回講習会を行う。
- ・技能の習得であるため、自分の頭で考え、何度も同じ問題を繰り返すことが大事である。

# オフィスソフト演習Ⅰ

授業期間：1年次 4月～2月

単位・時間数：5単位・75時間

担当者：笹森 由美子（実務経験者）

（職務内容）

情報処理関連企業でプログラマーとして、プログラム開発業務に従事

（指導内容）

広く情報処理及び情報技術を活用できる基礎的・基本的な知識とワープロ、エクセル、データベースなどのアプリケーションソフトを通じて、検定取得を目指した指導をする。

講義の目的および概要：

実社会においてコンピュータは必要不可欠なツールの一つです。初めにワードの機能と操作方法の基礎を身につけ、12月の日検ワープロ検定3級以上の合格を目指していく。10月からは、インターンシップでも必要とされているエクセルの基本操作を身につけ、さらに2年次に受験するサーティファイ表計算検定3級取得に繋げていく。

講義方法：

- ・ワードは、文書作成に必要な機能や編集などをテキスト中心に学び、さらに練習問題を繰り返すことで知識を確実なものとし、12月の日検ワープロ検定取得に繋げていく。
- ・エクセルは、基本の関数や機能などをテキスト中心に学び、さらに2年次に受験するサーティファイ表計算検定3級取得に繋げていく。

授業計画：

## 1. ワード

- ・入力の基本（短文入力ファンクションキーの使いかたなど）
- ・文書の編集（文字の訂正 範囲指定 書式設定など）
- ・ビジネス文書の作成（ビジネス文章の構成要素 印刷など）
- ・表の作成（表の挿入 結合 分割 文字の配置など）
- ・図形の作成（図形の作成 文字挿入 編集など）
- ・検定対策演習（各級ごとに問題を反復練習）

## 2. エクセル

- ・四則演算 罫線 書式設定 行列の編集
- ・絶対参照（セルの固定機能）
- ・関数（SUM AVERAGE MAX MIN COUNT ROUND RANK.EQ など）
- ・グラフ（挿入 変更 編集など）
- ・データベース（並べ替え オートフィルターの設定など）

到達目標：

- ・日検ワープロ検定3級以上の合格を目指す。
- ・2年次に繋がるエクセルの基礎知識を身につけ、ビジネスで活用することができるようになる。

目標検定・受験時期：

- ・日検ワープロ検定3級以上・1年次12月

試験・成績評価：

- |              |     |
|--------------|-----|
| 1. 試験その他     | 50% |
| 2. 提出物及び小テスト | 30% |
| 3. 平常点その他    | 20% |

テキスト：

1. 「ワードの基礎と応用」（オリジナル教材）
2. 「エクセルの基礎」（オリジナル教材）

参考文献：

「表計算検定3級問題集」（サーティファイ）

学習を行うにあたり：

- ・授業でわからないことをそのままにしないこと。
- ・予習よりも復習を行い、知識を確かなものにする。
- ・欠席した授業の課題も提出すること。

# 文書処理概論

授業期間：1年次 4月～2月  
単位・時間数：2単位・30時間  
担当者：大西 博士

講義の目的および概要：

正確で表現力豊かな文章を理解して作成する。何のために書くのか、文章の機能や目的を意識させ、文書処理に必要な語彙力を強化する。また、インターンシップや就職活動で大切になる文章読解・自己PR文・礼状の書き方について学ぶ。

講義方法：

テキスト、課題作成

授業計画：

「書く力」をつける

1. 書き表し方の漢字に注目
2. 書き表し方の句読点に注目
3. 和語・漢語・外来語
4. 言葉のグループ認識
5. 推敲の習慣
6. 種々の別表現
7. 改まった表現
8. 自己PR文の書き方
9. 礼状の書き方

10. 手紙のマナー

「話す力」をつける

1. 挨拶、自己紹介（プロフィール）
2. 改まった話し方
3. 敬語の使い方

「伝える力」をつける

1. 話を聞く（傾聴）
2. キーワードを説明（定義）する
3. 根拠と出典を示す
4. 表・グラフを読む・描く

到達目標：

社会人として基本的な知識、表現力、書く、話す力、読む力を身に付ける

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

- |              |     |
|--------------|-----|
| 1. 試験        | 40% |
| 2. 課題        | 40% |
| 3. 出席状況・授業態度 | 20% |

テキスト：

1. 「日本語表現とコミュニケーション」（実教出版）
2. 「漢字検定3級ピタリ予想模試」（増進堂）  
上記以外にプリント配布

学習を行うにあたり：

- 普段の生活を送る中で出会う文書表現に注目して意識を高める。漢字の意味と読み書きができるよう事前学習をすること

# 体育 I

授業期間：1年次 4月～2月  
単位・時間数：2単位・30時間  
担当者：平島 仁志

講義の目的および概要：

- 体育実技を通して、自主性・協調性と何事にも最後まで成し遂げる強い精神力を育てる。
- 挨拶・身だしなみ・礼儀・マナーなどを身に付け社会人としての基礎を学ぶ。

講義方法：

クラス内のコミュニケーションをしっかりと取り、アリーナで実技を行う。

授業計画：

- 体操
- 集団行動
- バレーボール
- バドミントン
- 卓球
- バスケット
- フットサル など

到達目標：

- 何事にも最後まで主体性を持ち責任ある行動が出来るようになる。
- スポーツのルールを通じ正しい判断力と協調性を持った鼓動が出来るようになる。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 1. 活動参加状況          | 20% |
| 2. 自主性・協調性         | 30% |
| 3. 出席状況            | 20% |
| 4. 挨拶・礼儀・言動・規則等の遵守 | 30% |

テキスト：

なし

学習を行うにあたり：

- 健康な社会生活を送るうえでの基本的姿勢を身に付けておく。
- 社会人としての基本的なマナー知識を身に付けておく。

# 時事経済 I

授業期間：1年次 9月～2月

単位・時間数：1単位・15時間

担当者：日下部 憲和

講義の目的および概要：

1. 就職試験の筆記テストや面接で国内外のニュースが出題されることが多い。本講義では最新のニュースや時事問題を解説し、その背景を読み解き、知識や見識を身につけることを目的とする。
2. 特に、現代日本の重要課題である震災復興やエネルギー問題、食糧、増税、財政問題、東アジアの外交問題については、学生が独自の見識を持ち、自分の意見の発言することや、論述できるようになる。

講義方法：

「図解まるわかり時事用語」を中心に、直近で起きたニュースや時事問題を自作資料レジュメ、新聞記事、社説などを使用して、できるだけ分かりやすく解説し、理解を深めるようにしたい。

授業計画：

1. オリエンテーション&ガイダンス
2. その時期に起きたニュースや時事問題
  - ・ テキスト
  - ・ 新聞記事
  - ・ 社説 など

到達目標：

就職試験の筆記テストや面接で時事問題が出題された時に対応できる知識や能力を身に付け、常に世の中の動きや、国際情報にも関心を持つ社会人となれるようにする。また、集団討論などによりプレゼン能力を高め、社会人基礎力の向上を目指す。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

1. 定期試験 80%
2. 平常点その他 20% (出席率・授業態度)

テキスト：

1. 「図解まるわかり時事用語」(新星出版社)
2. 適宜授業中にプリントを配布する。

学習に行うにあたり：

- ・ 時事経済に関する幅広い知識や情報を習得しておくこと。
- ・ 新聞、テレビ、インターネットなど情報の洪水の中から批判的に読み解くメディア・リテラシーの力を養い、ものの見方や考え方を向上させる。

# 北海道観光プロデュース

授業期間：2年次 6月～1月

単位・時間数：10単位・150時間

担当者：福森 星嗣（実務経験者）（予定）

（職務内容）

旅行会社にて旅行関連業務全般に従事（3年9か月）

（指導内容）

旅行会社で営業を担当し、多くの旅行プランを作成した経験をもとに、旅行プランの作成から地元経済の発展を考えることを実践的に行う。

講義の目的および概要：

2年間の学習の総まとめとして学生が目線で見えた新たな北海道観光を提案する。その提案は北海道観光振興機構などが主催する学生コンテストや産学連携などにより、外部での成果発表や商品化に向けて実施する。

講義方法：

プレゼンテーション・観光マーケティングなど、今まで学習してきた各科目を理解したうえで、グループワークや学内発表や外部発表等の時間として授業を展開する。中心的に行うものは、北海道観光振興機構などが主催する学生コンテストの参加や産学連携に協力していく。

授業計画：

1. 北海道各地域のデータ分析
2. 北海道観光振興機構が実施する「学生による北海道観光プランづくりコンペ」1次審査資料の作成  
※ 1次審査通過者の準備は授業外で実施となります。
3. 産学連携の企画作成・プレゼンテーション
4. 自由課題による学内発表会の実施

到達目標：

- ・北海道観光をテーマに新たなツアーの作成などグループごとにテーマを持ち、企業で企画提案などができる様にする。
- ・観光業界以外への就職を考えている場合でも、社会人基礎力の発信力や傾聴力・課題発見力・創造力・チーム力などの向上を目指していく科目である。テーマは学科で学んだ観光を取り上げることとなる。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価法：

1. 課題・レポート 80%（グループワーク・発表）
2. 平常点その他 20%（授業への参加・出席）

テキスト：

1. 「北海道観光マスター検定公式テキスト」
2. 「じゃらんで旅する♪北海道」  
（リクルート北海道じゃらん） など  
※ 1年次や他の授業で使用している教材を使用する。

参考文献：

- ・札幌市や北海道が毎年度発行している観光入込数調査報告
- ・1年次使用テキスト及び配布資料などグループごとに必要な資料が異なる。

学習を行うにあたり：

- ・他の授業の内容も反映してすることが大きな成果に繋がる、そのため、他の授業や日々の学習にも力を入れ取り組む。
- ・1年次から行う授業は、最終的には北海道観光プロデュースへつながる科目である事から1年次の学習をしっかりと行う必要がある。
- ・この科目は2年間の学習の振り返りである。
- ・授業時間で完成しない場合には、宿題となります。
- ・プレゼンテーション科目との連動により実施される。その為、プレゼンテーション科目で使用している資料はこの科目でも使用する。

# プレゼンテーション

授業期間：2年次 4月～1月  
単位・時間数：4単位・60時間  
担当者：梅村 匡史（予定）

講義の目的および概要：

- 文献・資料等を適切にまとめ、資料とともに口頭で伝達できる。
- 自らのアイデアやグループでのアイデアを形にして、他人に伝達できるようになる。
- コンペに参加し、競争に勝つためのプレゼンのあり方を体感するとともに、他者のプレゼンを見る事により、自らの不足している部分を実感する。
- 自分自身のロゴを通して自分自身を表現できるようになる。
- 講義方法：
  - スケッチブックや模造紙・パワーポイントなど資料を作成し、口頭で発表をしていく。また、コンペ等に出品していくことから、グループの活動を実施し、適切なプランを作成していく。

授業計画：

1. 沖縄研修旅行のプレゼンテーション
2. 就職希望業界の研究プレゼンテーション
3. インターンシップ報告発表
4. コンテストに向けた企画書作成
5. コンテスト企画書に基づくプレゼンテーションの作成
6. 自分の住んでいる地域の魅力を発信
7. 就職先のライバル企業研究

到達目標：

- 文章をまとめて、伝達できるようになる。
- 自らの考えを正しく伝達できるようになる。
- 上記、達成のための資料作成を出来るようになる。
- オーラル表現を正しく出来るようになる。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1. 課題・レポート    | 50%             |
|               | (グループ評価・個人評価)   |
| 2. 資料まとめ・中間発表 | 30% (個人評価)      |
| 3. 平常点その他     | 20% (授業への参加・出席) |

テキスト：

1. 適宜、授業中にプリントを配布する。
2. 北海道観光プロデュースで使用する資料等

学習に行うにあたり：

- 北海道観光プロデュース科目との連動により実施される。その為、北海道観光プロデュース科目で使用している資料はこの科目でも使用する。

# イベントと観光

授業期間：2年次 4月～1月  
単位・時間数：2単位・30時間  
担当者：福森 星嗣（実務経験者）（予定）

（職務内容）

旅行会社にて旅行関連業務全般に従事（3年9か月）

（指導内容）

旅行会社で MICE 業務を行っていた。その経験から北海道の MICE の現状や北海道 MICE の手法・企画立案について指導する。

講義の目的および概要：

道内では官民主催の様々なイベントや MICE と言われる国際会議や展示会などが開催されています。イベントや MICE が北海道観光にもたらす効果について学びます。

講義方法：

新聞記事や各種情報をパワーポイントに整理した資料などを利用して、北海道のイベント事情や MICE 事情などについて学びます。

授業計画：

1. 北海道のイベント
2. 北海道の MICE
3. イベントと MICE による観光振興
4. イベント・MICE とインバウンド
5. スポーツ MICE
6. 国際イベントの運営
7. イベント事例の検証
8. MICE 事例の検証
9. イベントと MICE による地域の活性化

到達目標：

イベントや MICE が北海道の観光振興に大きく寄与していることを学び、今後、観光業を北海道の基幹産業としてどのように発展させていったら良いかを考える。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

- |            |                 |
|------------|-----------------|
| 1. 課題・レポート | 50%             |
| 2. 小テスト    | 30%             |
| 3. 平常点その他  | 20% (授業への参加・出席) |

テキスト：

「北海道観光ハンドブック  
北海道観光マスター検定公式テキスト」  
(北海道商工会議所連合会)

※1年次配布

学習に行うにあたり：

- 新聞やインターネットから北海道のイベントや MICE に関する情報を得ること。
- 札幌市内で開催されるイベントの会場に足を運んで、実際にイベントを見ておくこと。
- 観光産業以外であっても MICE は様々な業界にとっても大きな利益を生み出すものとなっていることを理解する。

# 北海道の食文化と土産品

授業期間：2年次 6月～1月

単位・時間数：4単位・60時間

担当者：金子 由美（実務経験者）（予定）

（職務内容）

「食をトータルにサポートする」事業を展開。食育などの講演・セミナー、メニューや商品開発、食に関する地域おこし及びプロデュース、食の観光ビジネスに従事

（指導内容）

「食と観光で地域を活性化させる」、「食と観光で観光レベルをアップさせる」をプロモーションできるまでを指導する。

講義の目的および概要：

1. 地域ならではの食・食文化を知り、食をテーマに地域と旅行者をつなぐ観光をプロモーションできる人材を目指す。
2. 新しい食観光を目指し「食」「農」「観光」「文化」「人」を結びつけ、北海道が持っている豊かで活力ある本物の魅力を作り上げていく力を養成する。
3. 土産物に関して旅行者が求めている物とのマッチングや新しい商品開発を考える力を学ぶ。

講義方法：

1. 座学+映像・プロジェクター使用で進行
2. 各地域の観光の企画づくり
3. 各地域で眠っている物・良さに気づかれていない物・観光に結びつけられそうな物を毎回、各自で調査し、旅行者とどう繋げていくかをディスカッションする。

授業計画：

1. 食とは。食の魅力について
2. 北海道の一次産業と六次化。食材と加工。  
～誇れる食材と加工品の基本的知識と可能性～
3. 地域限定性の高い食材と食材のブランド化
4. 北海道の食の歴史と食文化を旅行者へ繋ぐポイントと季節の伝統食
5. 食を紡ぐ人と旅行者を繋ぐ取り組み
6. 食体験と観光
  - \* 旅行者は何を求めているのか
  - \* 体験の種類と効果
  - \* 新しい体験づくり
7. 各地域の食観光現場と観光イベントの効果
8. 地域らしさを感じさせる提供方法（食材・パフォーマンス・雰囲気（デザイン））
9. 観光の新しいブランド化と道の食制度の観光性との関係
10. これからの課題（生産者・販売者・食の提供者・観光業者）
11. 北海道土産を検証するとともに、求められる土産と経済性

到達目標：

1. 食の現状と問題点、そして可能性をしっかりと把握した上で、新しい食観光のエンターテインメント性を考えていけるようにする。
2. 北海道の食観光の強みと必要性を学ぶ。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

1. 課題・レポート 50%
2. 小テスト 30%
3. 平常点その他 20%（出席率）

テキスト：

- ・適宜、授業中にプリントを配布する。

学習に行うにあたり：

- ・「食を楽しむ」を心がける
- ・どこかへ出かけたら、その土地の食材・土産物をしっかりと意識し写真などのデータに記録をする



# 観光情報の収集と発信

授業期間：2年次 6月～1月

単位・時間数：4単位・60時間

担当者：田中 勲（実務経験者）（予定）

（職務内容）

旅行情報誌をはじめとした紙&インターネットメディアでの企画・編集・執筆を担当（20年間）

（指導内容）

企業の広報・広告担当が持つべき基本知識、情報発信方法を指導する。更に一般的なメディアリテラシーについても指導する。

講義の目的および概要：

観光業界をはじめとした企業・団体の広報・宣伝担当者に必要な基礎知識の習得と、現代社会人として必須の情報リテラシーの習得を目標として、雑誌記事制作実習を含めた実践的な内容で講義を行う。具体的には下記の項目を学んでいく。

- ・マスメディアの仕組みを学ぶ。
- ・マスメディアでの情報発信方法を学ぶ。
- ・北海道観光をデータから学ぶ。
- ・インターネット、SNS など新しいメディアを利用することのメリットとリスクを学ぶ。

講義方法：

1. 毎週、学生は授業時間内に行う課題を提出する。講義はまず前週の課題の返却と解説から始め、その後その週の講義を行い、学生は講義に関する課題に取り組む。
2. 講義部分に関しては講師が話す場合もあれば、映像などを利用する場合もある。
3. 後半に実施する雑誌記事制作実習では、学生はグループ単位でディスカッションを行い、コンピュータールームにて記事プラン作成、原稿執筆、写真探しなどの作業を行う。

授業計画：

1. 企業広報の考え方の基礎
2. メディアの基本
3. 北海道観光のデータからの考察
4. 雑誌記事制作演習
5. 広報・宣伝に関する諸問題の考察
6. 情報にまつわる諸問題の考察

到達目標：

- ・企業の広報・宣伝担当者としての基礎の習得
- ・社会人として基本的な情報リテラシーの習得

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

- |               |     |
|---------------|-----|
| 1. レポート（1回）   | 50% |
| 2. 授業中に出される課題 | 30% |
| 3. 授業への参加態度   | 20% |

テキスト：

「じゃらんで旅する♪北海道」  
（リクルート北海道じゃらん）

参考文献：

「ネットメディア覇権戦争 偽ニュースはなぜ生まれたか」  
（光文社新書）

学習に行うにあたり：

- ・LINE だけでなく、Facebook、Twitter にも登録して SNS とはどのようなものを体験できるようにしておくこと。
- ・学生向けテキスト（じゃらんで旅する♪北海道）を見て、この本がビジネスとしてどのように成り立っているのかを考えておくこと。

# 国際観光

授業期間：2年次 4月～1月  
単位・時間数：2単位・30時間  
担当者：横田 久貴（予定）

講義の目的および概要：

世界の国・地域に関する歴史と人々の生活・文化の特色についての理解と認識を深め、主体的に生きるための自覚と資質を養う。

講義方法：

1. 地図の活用や地図化などの作業的、体験的な学習を取り入れ、国際観光に関する技能を身につける。
2. 情報の地図化などの活動を通して、地図の有用性に気付かせ、主に観光に関する地理的スキルを身につける。

授業計画：

1. ヨーロッパの地理的・観光的考察と実践  
・イギリス、フランス、イタリア、スペインなど
2. 定期試験① ヨーロッパの地理・観光
3. アジアの地理的・観光的考察と実践  
・中国、韓国、台湾、香港、シンガポールなど
4. 定期試験② アジアの地理・観光
5. オセアニアの地理的・観光的考察と実践  
・オーストラリア、ニュージーランドなど
6. 定期試験③ オセアニアの地理・観光
7. アメリカの地理的・観光的考察と実践  
・ハワイ、USA、メキシコなど
8. 定期試験④ アメリカの地理・観光

到達目標：

1. 地図作図能力  
世界的位置を理解し、半島・湾などを詳細に手書きの地図で描くことができる。
2. 観光的知識・理解  
世界遺産の位置や文化的特色を理解し、その国の観光の在り方について身につける。
3. 地理的スキル・理解  
各地の地名、文化・観光を理解し、地理的なものの見方、考え方ができる。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価法：

上記の定期試験時に以下の観点で出題し、評価する。

- |           |                  |
|-----------|------------------|
| 1. 試験その他  | 60%（定期試験）        |
| 2. 課題     | 20%（地図描写・観光知識など） |
| 3. 平常点その他 | 20%              |

テキスト：

「旅に出たくなる地図 世界」（帝国書院）

学習を行うにあたり：

- ・世界各地からのインバウンド（訪日外国人旅行者）に対応するため、それぞれの出身国の地理及び観光に親しみをもって接する態度が大切です。そのためには、どんな国の人に対しても先入観をもたず、笑顔でおもてなしをする心をもってください。

# インバウンドビジネス

授業期間：2年次 4月～1月  
単位・時間数：4単位・60時間  
担当者：福森 星嗣（実務経験者）（予定）

（職務内容）

旅行会社にて旅行関連業務全般に従事（3年9か月）  
コンベンションや札幌市内で開催された世界大会の運営に関わり、外国人観光客への手配や案内業務に従事

（指導内容）

旅行会社でMICE業務を行っていた。その経験から北海道のMICEの現状や北海道MICEの手法・企画立案など、これから発展するインバウンドビジネスの必要性について指導する。

講義の目的および概要：

訪日外国人観光客が増加し、日本の産業の中では観光は欠かすことができない状況になっている。その観光産業の中心的役割のインバウンド業務を学び、少しでも日本の観光産業の発展に貢献できるようになって行く。

講義方法：

インバウンド業務入門を中心に、小テストを繰り返し、インバウンド業務検定に向けて授業を展開する。

授業計画：

1. インバウンドについて
2. インバウンドスタッフに求められるもの
3. 接客マナーと身だしなみ
4. 訪日客の安全管理
5. インバウンド業務に携わる者の知識と心構え
6. 訪日旅客への利便性改善の動き
7. インバウンド業務の仕組み
8. インバウンド業務の実務
9. マネジメントとは

到達目標：

インバウンドの特性、インバウンドの対応をするための知識、日本について、諸外国の知識を習得する。

目標検定・受験時期：

国家資格 インバウンド業務検定 受験予定

試験・成績評価：

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| 1. 試験その他  | 50%（定期試験・検定試験の結果） |
| 2. 小テスト   | 30%               |
| 3. 平常点その他 | 20%（授業への参加・出席）    |

参考文献：

「インバウンド業務入門」（日本添乗員サービス協会）

学習を行うにあたり：

- ・札幌市内や旅行先での外国人旅行者の行動を観察してみる。
- ・新聞・テレビ・旅番組・雑誌などから北海道の交通に関連する最新情報をしっかりと得ること。

## 観光マーケティングⅡ

授業期間：2年次 4月～8月

単位・時間数：1単位・15時間

担当者：山岸 奈津子（実務経験者）（予定）

（職務内容）

リゾート経営会社にてサービス担当（3年間）、  
広報PR担当（7年間）に従事

（指導内容）

観光マーケティングの基礎と実務として活用できる  
ように事例や演習を用いて指導する。

講義の目的および概要：

世の中の企業活動の根本にあるマーケティングについて、その  
全体像と基本的な考え方を知る。

さらに、今まで学んできたことを有機的に結びつけ、企画立案  
のプロセス（飲み会から新規事業まで）を体感してみる

講義方法：

1. 講義の都度教材を提供し、問題を出すので、自分の考えや  
気づきをレポートとしてまとめる。
2. 企業の実際のマーケティング活動に触れるため、施設の見  
学や授業中にゲストに来ていただく機会を設ける（予定）。

授業計画：

1. マーケティングとは何か？（マーケティングⅠ復習）
2. マーケティングリサーチについて
3. マーケティング・トレース（事例から考える）
4. 授業で学んだことを使って事業を考える

到達目標：

企業が取り組むマーケティング戦略を推測する  
マーケティング思考で物事を考える土台をつくる

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

- |                  |     |
|------------------|-----|
| 1. レポート          | 40% |
| 2. グループ実習        | 40% |
| 3. 授業中の発言および受講態度 | 20% |

参考文献：

必要に応じて指定する

学習に行うにあたり：

- ・マーケティングⅠで得た知識を自分のものにするために、  
マーケティングに関する書籍に触れてみる  
推薦図書は、授業の中で随時紹介していく

## サービス接遇Ⅱ

授業期間：2年次 4月～1月

単位・時間数：2単位・30時間

担当者：和田 早代（予定）

講義の目的および概要：

1. サービス業の接客力を身に付けるために、1年次で理解し  
たサービス接遇を、2年次では自らが表現できる様になるこ  
とを目標とする。
2. ホスピタリティの高いサービス業の事例を紹介し、これか  
らのサービス接遇現場で活躍できるよう、個々人の感性を伸  
ばしていきます。
3. アルバイト先や就職先で活躍でき、社会の即戦力となれる  
ように、「できる」という自信をつけることを目標としてい  
ます。

講義方法：

サービス接遇検定2級受験ガイドと問題集に準じて授業展開を  
します。繰り返し問題を解くことで、出題傾向を把握してケア  
レスミスをなくしていく。

授業計画：

1. サービス接遇とは何か
  - ・第一印象の大切さを理解したうえで、あいさつやお辞  
儀、アイコンタクトの仕方を体得する。
  - ・尊敬語、謙譲語、丁寧語の敬語の使い方を理解する。
2. お客様対応の実践
  - ・実技試験
3. サービス接遇検定2級テキスト
  - ・ガイドと問題集を繰り返し学習する。（宿題あり）
4. 接遇用語の理解を深める
  - ・小テストの実施
5. 模擬試験の実施
  - ・2級合格に向けて、弱点を克服する。
6. サービス業のおもてなしについて実例を紹介する。
  - ・おもてなしのあり方を考えながら、自らの感性を養う。
7. 就職後、企業の即戦力となれるよう、サービス接遇の理解  
と表現方法を振り返る。

到達目標：

サービス・接遇について理解し、満足の高いお客様対応を出来  
る様にする。サービス接遇検定2級の資格取得を目指します。

目標検定・受験時期：

サービス接遇検定2級・2年次11月

試験・成績評価：

- |            |     |                |
|------------|-----|----------------|
| 1. 試験その他   | 50% | （定期試験・検定試験の結果） |
| 2. 小テスト    | 30% |                |
| 3. 授業態度その他 | 20% | （授業への参加・出席）    |

テキスト：

「サービス接遇検定受験ガイド2級」（早稲田教育出版）  
「サービス接遇検定実問題集2級」（早稲田教育出版）

学習に行うにあたり：

- ・過去問題や接遇用語など、宿題や復習の積み重ねが検定合格  
の近道です。敬語は使い慣れることが大切なので、日頃から  
先生やアルバイト先などで積極的に使いましょう。」

## 日本の宿のおもてなしⅡ

授業期間：2年次 4月～9月  
単位・時間数：2単位・45時間  
担当者：福森 星嗣（予定）

講義の目的および概要：

1. 日本の宿におけるおもてなしは世界からも高評価を得ている。そのおもてなしの基本は日本の宿おもてなし検定〈初級〉で習得しており、更なる高みを目指していく。
2. 検定試験の名前は日本の宿という名前がついているが、宿のおもてなしの基本的な考え方は社会人になるにあたってのマナーや知識がたくさん含まれ、様々な場面で活かすことができるようにしていきます。

講義方法：

日本の宿おもてなし検定〈中級〉のテキストを中心に講義していく。

授業計画：

1. 中級の目指す目標
2. ワンランク上のおもてなしをめざして
3. ユニバーサルサービス
4. 外国からのお客様のおもてなし
5. 苦情の対応
6. 非常時の対応
7. 後輩社員の指導・育成

到達目標：

日本の宿の基本的応用的知識を習得する事で、社会人としての必要なおもてなしを習得する。

目標検定・受験時期：

日本の宿おもてなし検定〈中級〉・2年次9月

試験・成績評価：

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| 1. 試験その他  | 50%（定期試験・検定試験の結果） |
| 2. 小テスト   | 30%               |
| 3. 平常点その他 | 20%（出席・授業態度）      |

テキスト：

「日本の宿 おもてなし検定〈中級〉公式テキスト」  
（JTB 総合研究所）

学習に行うにあたり：

- ・初級を合格していない場合には、2年次も〈初級〉を受験する事となる。
- ・中級の試験範囲は初級のテキストも使用することになる。

## 北海道観光講話

授業期間：2年次 9月～1月  
単位・時間数：1単位・15時間  
担当者：企業担当者（実務経験者）

（職務内容）

観光業の企業経営者や人事担当者など

（指導内容）

北海道で活躍する企業経営者や実務者からの講話をして頂く授業となっている。北海道経済のこれからを考えることができる人材の育成を目指す。

講義の目的および概要：

観光産業の変化のスピードはとてはやく、テキストなどで学ぶことには限界がある。そのため、北海道の観光関連産業の第一線で活躍するゲスト講師による講義を実施する。

講義方法：

北海道の観光関連経営者や実務経験者など、ゲストからの講義を中心に実施していく。

授業計画：

- ・ゲスト講師により授業内容が異なる。
- ・ゲスト講師は4・5名程度による単発授業を実施する。
- ・ゲスト講師の予定がない場合には新聞やネットニュースなどを活用し、授業を展開する。
- ・コンテストに向けた発表練習を聞く事がある。

到達目標：

北海道の観光の現状や最新情報を入手し、観光産業のこれからの考えることができる様にする。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1. 課題・レポート | 80%           |
| 2. 平常点その他  | 20%（出席率・受講態度） |

テキスト：

- ・テキストは特にないが、講師からの配布物などがある。

学習に行うにあたり：

- ・新聞やネットニュースなど観光に関する最新情報を入手する努力をしておく。
- ・観光業界以外の就職であっても、1つでも気付きが様々な業界で役立ちます。
- ・北海道観光プロデュース科目でのヒントとなる項目があるため、積極的に質問をしていく。

## 観光英語Ⅱ（基礎 Class）

授業期間：2年次 4月～1月

単位・時間数：4単位・60時間

担当者：David Wright/Keith Kenny（予定）

### 講義の目的および概要

日本の外国人観光客は年間 4000 万人に到達する時代がもう間もなくです。そのため、観光産業にとって外国語は必要不可欠なものになっていきます。現在、日本に来る外国人観光客は最低でも英語が話せます。最近、観光産業に限らず、英語を話す機会が多くなることから、日常英語や観光専門英語の表現や使い方を学びます。

### 講義方法：

英語能力を高めるためプリントで文法の基礎を学び、コミュニケーションできるためのドリル・ロールプレイ・ゲームなどを行います。その中心として観光シチュエーションを練習します。

### 授業計画

1. 自己紹介
2. 文法基礎
3. 道案内・説明
4. 時間・金額・特徴
5. 通訳ツールの使い方
6. 観光の専門用語
7. 観光シチュエーション

### 到達目標：

- ・ 自分について話をできるような英語力を身に付けます。
- ・ 分かりやすく日常のテーマやアクティビティについて話せるようになります。
- ・ 簡単な観光専門用語の使い方や意味が解るようになる。

### 目標検定・受験時期：

英検 3 級・2年次 10月

### 試験・成績評価：

- |             |     |
|-------------|-----|
| 1. 定期テスト    | 60% |
| 2. レポート・課題  | 20% |
| 3. 出席率・受講態度 | 20% |

### テキスト：

1. 適宜、授業中にプリントを配布する。

### 学習に行うにあたり

- ・ コミュニケーションのために通訳ツールの使い方が分かる。

## 観光英語Ⅱ（応用 Class）

授業期間：2年次 4月～1月

単位・時間数：4単位・60時間

担当者：David Wright/Keith Kenny（予定）

### 講義の目的および概要

日本の外国人観光客は年間 4000 万人に到達する時代がもう間もなくです。そのため、観光産業にとって外国語は必要不可欠なものになっていきます。現在、日本に来る外国人観光客は最低でも英語が話せます。最近、観光産業に限らず、英語を話す機会が多くなることから、日常英語や観光専門英語の表現や使い方を学びます。

### 講義方法：

英語能力を高めるためプリントで文法の基礎を学び、コミュニケーションできるためのドリル・ロールプレイ・ゲームなどを行います。その中心として観光シチュエーションを練習します。

### 授業計画

1. 自己紹介
2. 文法基礎
3. 道案内・説明
4. 時間・金額・特徴
5. 通訳ツールの使い方
6. 観光の専門用語
7. 観光シチュエーション

### 到達目標：

- ・ 自分について話をできるような英語力を身に付けます。
- ・ 分かりやすく日常のテーマやアクティビティについて話せるようになります。
- ・ 簡単な観光専門用語の使い方や意味が解るようになる。

### 目標検定・受験時期：

1. 英検準 2 級・2年次 10月
2. 観光英語検定 3 級・2年次 10月

### 試験・成績評価：

- |             |     |
|-------------|-----|
| 1. 定期テスト    | 60% |
| 2. レポート・課題  | 20% |
| 3. 出席率・受講態度 | 20% |

### テキスト：

1. 適宜、授業中にプリントを配布する。

### 学習に行うにあたり

- ・ コミュニケーションのために通訳ツールの使い方が分かる。

## 商業簿記Ⅱ

授業期間：2年次 4月～6月  
単位・時間数：5単位・75時間  
担当者：友兼 昭（予定）

講義の目的および概要：

1年次2月に受験した日商簿記3級の再受験での合格を目指す。  
日商簿記3級の範囲をおさらいし、6月受験で日商簿記検定3級の合格を目指す。

講義方法：

1年次で実施した日商簿記検定3級の範囲の復習を行い、答案練習を行う。

授業計画：

1. 商業簿記Ⅰの復習仕訳
  - ①仕訳
  - ②試算表
  - ③精算表
  - ④貸借対照表・損益計算書
  - ⑤伝票会計
2. 答案練習

到達目標：

企業活動の基本である簿記を学び、重要な取引の流れ、利益管理などビジネススキルを習得し、日商簿記検定3級の取得を目指す。

目標検定・受験時期：

日商簿記検定3級・2年次6月再受験

試験・成績評価：

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| 1. 試験その他  | 50%（定期試験・検定試験の結果） |
| 2. 小テスト   | 30%               |
| 3. 平常点その他 | 20%（授業の参加・出席）     |

テキスト・参考文献：

1. 「新版日商簿記 3級テキスト」（実教出版）
2. 「新版日商簿記 3級問題集」（実教出版）
3. 「合格するための過去問題集 日商簿記3級」（TAC）

※1年次配布

学習に行うにあたり：

- ・ 就職を希望する業界、職種を問わず、ビジネスパーソンに必須の基礎知識を身に付けると自覚を持ち、将来のキャリアに繋げるという目標を持って取り組んでもらいたい。

## 商業簿記Ⅱ（販売士コース）

授業期間：2年次 4月～6月  
単位・時間数：5単位・75時間  
担当者：徳田 智恵子（予定）

講義の目的および概要：

1年次2月に日商簿記3級の取得者向けに開講する。  
小売店舗運営の基本的なしくみを理解し、販売員としての基本的な知識を身につける

講義方法：

テキスト・プリントを使用して展開する

授業計画：

1. 小売業の累計
  - ①流通における小売業
  - ②組織形態別小売業
  - ③店舗形態別小売業の基本的役割
  - ④商業集積
2. マーチャンダイジング
  - ①商品について
  - ②マーチャンダイジングとは
  - ③商品計画、販売計画、仕入計画
  - ④価格設定
  - ⑤在庫管理、販売管理
3. ストアオペレーション
  - ①ストアオペレーションとは
  - ②包装技術、ディスプレイについて
  - ③作業割当
4. マーケティング
  - ①小売業のマーケティング
  - ②顧客満足経営
  - ③商圈の設定と出店
  - ④リージョナルプロモーション（売場起点の狭域型購買促進）
  - ⑤顧客志向型売場づくり
5. 販売経営管理
  - ①販売員の役割
  - ②法令知識、計数管理
  - ③店舗管理
6. 答案練習

到達目標：

販売士3級の取得を目指し、基礎知識の定着を図る。

目標検定・受験時期：

リテールマーケティング検定3級・2年次7月

試験・成績評価：

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| 1. 試験その他  | 50%（定期試験・検定試験の結果） |
| 2. 小テスト   | 30%               |
| 3. 平常点その他 | 20%（授業の参加・出席）     |

テキスト：

「日商リテールマーケティング（販売士）検定試験3級」  
（実教出版）

学習に行うにあたり：

現在は少子高齢化や消費者のライフスタイルの変化、IT化によって変化しているため、変化に対応する店舗運営とは何か、基本的な店舗運営の知識を身に付け社会に出たときに役立ててほしい。

# オフィスソフト演習Ⅱ

授業間：2年次 4月～1月

単位・時間数：4単位・60時間

担当者：笹森 由美子（実務経験者）（予定）

（職務内容）

情報処理関連企業でプログラマーとして、プログラム開発業務に従事

（指導内容）

広く情報処理及び情報技術を活用できる基礎的・基本的な知識とワープロ、エクセル、データベースなどのアプリケーションソフトを通じて、検定取得を目指した指導をする。

講義の目的および概要：

1年次に実施したエクセルを継続して学習し、さらにエクセルを実践的に使えるようにすることで、6月実施のサーティファイ表計算検定の3級合格を目指していく。7月以降は、ワードを応用的に使える技術を身につけ、10月実施の日検文書デザイン検定3級以上の合格を目指していく。

講義方法：

- ・エクセルは、1年次に引き続き検定に向けて必要な機能や編集などをテキスト中心に学び、さらに練習問題を繰り返すことで知識を確実なものにしていく。
- ・ワードは、応用的機能や編集などをテキスト中心に学び、さらに文書デザイン検定取得に繋げていく。
- ・10月以降は、社会人として実務に必要なオフィスソフト全般の使用方法を実践的に学んでいく。

授業計画：

1. エクセル：1年次からの継続授業
  - ・データベース機能（複合抽出 並べ替えなど）
  - ・印刷機能（ページ設定 印刷範囲 ヘッダー・フッターなど）
  - ・検定対策演習（問題を反復練習）
2. ワード：ワープロの応用を習得
  - ・書式の応用（インデント設定 行間隔の変更 段組みなど）
  - ・表の応用（サイズ変更 合計 並べ替え 表のスタイルなど）
  - ・図形の応用（ワードアート 画像挿入・変更 スマートアートなど）
  - ・グラフの作成（サンプルデータ利用 エクセルから貼付など）
  - ・写真の挿入（挿入 配置 編集など）
  - ・差し込み印刷（文書への差し込みなど）
  - ・検定対策演習（問題を反復練習）

到達目標：

- ・エクセルの基本を習得し、ビジネスで活用することができるようになる。
- ・ワードを活用し、文書作成だけではなくチラシやPOPなどの作成ができるようになる。

目標検定・受験時期：

1. サーティファイ表計算検定3級・6月～7月
2. 日検文書デザイン検定3級以上・10月

試験・成績評価：

1. 試験その他 50%
2. 提出物及び小テスト 30%
3. 平常点その他 20%

テキスト：

「エクセルの基礎」（オリジナル教材）

参考文献：

「表計算検定3級問題集」（サーティファイ）

学習を行うにあたり：

- ・授業でわからないことをそのままにしないこと。
- ・予習よりも復習を行い、知識を確かなものにする。
- ・欠席した授業の課題も提出すること。

## 文章表現法

授業期間：2年次 4月～1月  
単位・時間数：2単位・30時間  
担当者：笹森 由美子（予定）

講義の目的および概要：

ビジネス文書を中心とした実務能力を育成する。また、文書の取扱いや保管方法などの基本的な知識として理解を深める。

講義方法：

座学にてテキストを中心に学ぶ。また、パソコンを使用して各種文書の課題を作成していく。

授業計画：

1. ビジネス文書の役割・種類
2. 効率よく伝わる文書をつくる（簡潔・明快・正確）
  - I. 標記技能（用字、用語、書式について）
  - II. 表現技能（正確な文章、わかりやすい文章、礼儀正しい文章について）
3. 社内文書の作成（部署内連絡、上司へ報告などを伝える文書、帳票など）
4. 演習①（報告書、回覧文、案内文、議事録など）
5. 社外文書の作成（取引上の文書、社交や儀礼のための文書など）
6. 演習①（通知書、依頼書、挨拶状、案内状など）
7. ビジネスメールの基本知識（メールのマナー、社内と社外メールの違いなど）
8. 文書の取扱い（発信方法、保管方法、ファイル管理など）
9. 演習①新聞を読み、内容を短く纏める
10. 演習②読んだ内容を自分の言葉で置き換える

到達目標：

ビジネス文書作成に必要な基礎的な知識や技能を身に付ける。簡潔で説得力ある文書を作成することが出来る。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

- |              |     |
|--------------|-----|
| 1. 定期試験      | 60% |
| 2. 課題        | 20% |
| 3. 授業態度・出席状況 | 20% |

テキスト：

「できる！ビジネス文書のつくり方が身につく本」  
（高橋書店）

学習に行うにあたり：

1. 日頃から新聞などを読み、ビジネス社会全般に関心をもつこと。
2. 座学と実技を関連付けてとらえること。
3. 課題を期限までに提出すること。

## 体育Ⅱ

授業期間：2年次4月～1月  
単位・時間数：2単位・30時間  
担当者：平島 仁志（予定）

講義の目的および概要：

- ・ 体育実技を通して、自主性・協調性と何事にも最後まで成し遂げる強い精神力を育てる。
- ・ 挨拶・身だしなみ・礼儀・マナーなどを身に付け社会人としての基礎を学ぶ。

講義方法：

クラス内のコミュニケーションをしっかりと取り、アリーナで実技を行う。

授業計画：

- ・ 卓球
- ・ バドミントン
- ・ バスケットボール
- ・ バレーボール
- ・ フットサル など

到達目標：

- ・ 自主性・協調性を育成する。
- ・ 何事も最後までやり遂げる強い気持ちを持つ人物の育成
- ・ 挨拶、身だしなみ、礼儀、マナー、言動、規則の遵守などの育成

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 1. 活動参加状況          | 20% |
| 2. 自主性・協調性         | 30% |
| 3. 出席状況            | 20% |
| 4. 挨拶・礼儀・言動・規則等の遵守 | 30% |

テキスト：

なし

学習に行うにあたり：

- ・ 自主性・協調性、道徳心、礼儀、マナー規則の遵守など社会人としての基本的知識をみにつけておく。
- ・ 健康な社会生活を送るうえでの基本的姿勢を身に付けておく。



## 時事経済Ⅱ

授業期間：2年次 4月～8月  
単位・時間数：1単位・15時間  
担当者：日下部 憲和（予定）

講義の目的および概要：

1. 就職試験の筆記テストや面接で国内外のニュースが出題されることが多い。本講義では最新のニュースや時事問題を解説し、その背景を読み解き、知識や見識を身につけることを目的とする。
2. 特に、現代日本の重要課題である震災復興やエネルギー問題、食糧、増税、財政問題、東アジアの外交問題については、学生が独自の見識を持ち、自分の意見の発言することや、論述できるようになる。

講義方法：

「図解まるわかり時事用語」を中心に、直近で起きたニュースや時事問題を自作資料レジュメ、新聞記事、社説などを使用して、できるだけ分かりやすく解説し、理解を深めるようにしたい。

授業計画：

1. オリエンテーション&ガイダンス
2. その時期に起きたニュースや時事問題
  - ・テキスト
  - ・新聞記事
  - ・社説 など

到達目標：

就職試験の筆記テストや面接で時事問題が出題された時に対応できる知識や能力を身に付け、常に世の中の動きや、国際情報にも関心を持つ社会人となれるようにする。また、集団討論などによりプレゼン能力を高め、社会人基礎力の向上を目指す。

目標検定・受験時期：

なし

試験・成績評価：

1. 定期試験 80%
2. 出欠状況 10%
3. 授業態度 10%

テキスト：

1. 「図解まるわかり時事用語」（新星出版社）
2. 適宜授業中にプリントを配布する。

学習を行うにあたり：

- ・時事経済に関する幅広い知識や情報を習得しておくこと。
- ・新聞、テレビ、インターネットなど情報の洪水の中から批判的に読み解くメディア・リテラシーの力を養い、ものの見方や考え方を向上させる。

## 就職指導

授業期間：2年次 4月～8月  
単位・時間数：1単位・15時間  
担当者：友兼 昭（予定）

講義の目的および概要：

1年次のインターンシップに引き続き、就職へ向けた指導を実施し、早期内定を得られる様にする。

講義方法：

求人紹介や大まかな流れなどの全体への指導は授業時間内で行う。その他、個別指導については昼休み・放課後に実施し、クラス全員が早期の内定を目指す。

授業計画：

1. 学校生活で得た事書き方指導（インターンシップ）
2. 求人票の紹介
3. 求人の検索方法の指導
4. 志望動機の指導
5. 面接指導

目標検定・受験時期：

なし

到達目標：

卒業時までクラス全員が内定を勝ち取り、笑顔で卒業をしていく。

試験・成績評価法：

必要授業時間数を満たした科目に適用するS評価とする。

テキスト：

1. 「就職活動ガイドブック」（オリジナル教材）
2. 「就職活動筆記試験対策集」（オリジナル教材）  
※ 1年次配布

学習を行うにあたり：

- ・スケジュール管理用の手帳を用意してください。
- ・CAの就職率が高いのは本人の努力であり、それを学校がサポートしています。就職活動は自分自身が行っているものであると認識をもち、就職への意識を高めてください。
- ・個別の就職指導については授業時間を含め、昼休み、放課後などの時間に行います。
- ・就職活動では時間厳守が鉄則です。自分が行うべきことの優先順位を考えて行動し、予定を調整してください。
- ・就職活動終了後もこの授業は展開されます。就職活動が終了した場合には学生生活を無駄にしない為に未取得の資格取得を目指してください。